

# 蒼穹

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今

松本大学学報

Vol.161  
2026.3



卒業生からのメッセージ「大学・短大での思い出を一言で！」

## 特集

### 多様に展開される教員の研究テーマ【第3弾】

2025年度 卒業研究・卒業論文発表会	04・05
「第4回 松本大学健康フォーラム」を開催	07
学内合同企業セミナーを開催	09
第8回「あるぶすタウン」を開催!	10ほか

大学教員が各々の専門分野の研究を行うことは、研究により得られた最新の知識や情報を授業に還元すると同時に、広く社会に普及・発信し、我が国の学術・教育・文化の振興や発展に寄与するという重要な使命があります。本特集では、蒼穹第144号に続き、第3弾として本学教員が取り組んでいる各研究内容をご紹介します。

## イスラームと経済活動の結節点を紐解く

総合経営学科 専任講師 上原 健太郎

現在、日本に滞在する外国人のムスリム（イスラーム教徒）の人口は約35万人と推計され、年々増加傾向にあります。外国からの観光客として来日するムスリムがメディアなどで注目を集めている一方、母国から日本に移住してきた在日ムスリム人口も地域社会において大きな役割を示すようになっていきます。

このような背景をもとに、2025年度から「日本のムスリムによる生活基盤の形成とその実態—長野県松本市・上田市を中心

に—」という研究課題に対して、文献調査やインタビュー調査を通じて取り組んでいます。

イスラーム世界では、主に「許された(もの)」を意味するハラール(ハラール)が大きな問題とされています。近年では、中東湾岸・東南アジア地域などの政府機関がハラール認証基準に基づいて認証を行っていますが、何をハラールとみなすのかは、ムスリムそれぞれで判断が異なる場合が多く見受けられます。



研究では、ハラールショップ・レストランに対してハラール食品の基準や、顧客層に関するインタビューを実施し、日本社会に生きるムスリムが、どのような範囲・方針でイスラームの教えを守りながら、生活を営んでいるのかという現状を明らかにしようとしています。

## 文化遺産の価値から考える「地域文化観光」

観光ホスピタリティ学科 専任講師 脇園 大史

文化遺産と聞くと、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。世界遺産から、地域の文



化財まで、私たちの社会は多様な文化遺産にあふれています。私の専門である文化遺産研究では、こうした文化遺産を対象に、そこに見出される価値に基づいて、なぜそれを未来へ受け継ぐのか、そして誰がどのように守り活かしていくのかを考えています。これまで私は、特に考古学遺跡を対象に、周辺地域社会とのつながりから遺跡を捉え直し、どのような姿で保護していくことが望ましいのか、また観光をはじめとした利活用

の中でその価値をどのように伝えていくべきかを研究してきました。また、文化遺産を未来へつなぐ実践も重視し、各地でワークショップを行いながら、多様な立場の人びとが文化遺産の価値や将来像をともに考える場づくりにも取り組んできました。研究室では、豊かな自然と多様な歴史文化が重なり合う信州一帯をフィールドの中心に据え、各地の文化遺産を次の世代へ継承していくための観光のあり方を学生とともに探究しています。今後も、地域社会と連携しながら、文化遺産の価値に根ざした「地域文化観光」のあり方を明らかにし、その実践を展開していきたいと考えています。

## 医療社会学の視座から、病院管理栄養士のジレンマに挑む

健康栄養学科 准教授 加藤 勇太

私は、2011年に病院管理栄養士になりました。病院管理栄養士は、人の生と死に向き合い、人々の幸せを支えるやりがいのある仕事です。しかし、管理栄養士として、医療人として、そして一人の人間として、どうすべきか、何度も立ちすくむことがありました。

栄養相談の効果の見えない患者さんに、関わり続けることはよいことなのか、腸閉塞のある終末期患者さんに「最期に普通食が

食べたい」と言われたら、など、教科書には載ることのない重い問いに答えを見出せずにはいません。

それから15年が経ち、再びその問いに對峙するため、「病院管理栄養士が直面するジレンマと対応」という研究テーマで、病院管理栄養士が経験したジレンマをインタビュー調査しています。インタビューからは病院経営と患者の利益との狭間で葛藤し、抗おうと

する姿や、認知症患者を不当に扱う医療者を目撃しながらも何もできなかったというナラティブが浮かび上がりました。経験者として共鳴する一方、研究者として分析する過程では、古傷が静かに疼きます。そして医療社会学を糸口として得られた新たな知見は、時に私を決るような感覚をもたらしますが、私なりの答えの一筋を導き出していきたいと思っています。

## アルペンスキー滑走動作のバイオメカニクス研究

スポーツ健康学科 専任講師 吉田 陽平

専門領域はスポーツバイオメカニクスです。これまで学校体育における児童生徒の運動や、スキー選手の滑走動作を対象に、3次元動作解析による定量的分析を行ってきました。近年は、アルペンスキー競技における「速さの秘訣」を科学的に解明することを主たるテーマとしています。スキーというスポーツは、重力による位置エネルギーをいかに滑走の運動エネルギーに変換できるかが技術の本質です。これまで、国内トップ選手の滑走動作を解析し、滑走中の重心の動きや姿勢変化の特徴を明らかにしてきました。現在は、滑走中の雪面反力を測定するためのセンサースキーの開発に取り組んでいます。3軸力センサーを内蔵した特製スキープレートで、ターン中に作用する力を計測することで、

アルペンスキー滑走動作の力学的特徴を詳細に把握することを目指しています。これらの研究成果は、競技力向上や指導法の改善に資するとともに、生涯スポーツとしてのスキーの普及発展にも貢献できると考えています。「友だちは位置エネルギー」と表現したくなるほど、私自身がスキーやスノーボードを生業スポーツとして楽しんでます。雪上スポーツの発展に寄与することが、私の研究活動の原動力です。研究成果を通して、社会に還元していきたいと考えています。



## 英語学習に貢献できるテスト開発を目指して

学校教育学科 専任講師 菊原 健吾

私の専門分野は、言語テストング・評価です。現在、主に二つの研究テーマに取り組んでいます。

一つ目は、英語ライティングが課題の目的をどの程度達成しているかを評価する「機能的適切さ(Functional Adequacy)」に関する研究です。現在は、高等学校の英語ライティング評価への貢献を目指し、教師間で生じる評価のばらつきや、評価規準・基準の妥当性について、多相ラッシュ分析や

一般化可能性理論などの統計的手法と質的研究法を組み合わせる検討をしています。これにより、教室場面で信頼性が高く、教師にとってより使いやすい評価方法の提案を目指しています。

二つ目は、小学校外国語指導に関わるテスト開発の研究です。小学校で実際に求められている英語使用の実態を明らかにし、その能力を適切に測定できるテストの開発に取り組んでいます。今後は、その成果を小

学校教員を目指す大学生(例えば、松本大学教育学部)の、「外国語指導に必要な英語力」向上につなげることを目標としています。テストや評価方法を考えることを通して、学習者のよりよい言語学習に貢献したいと考えています。



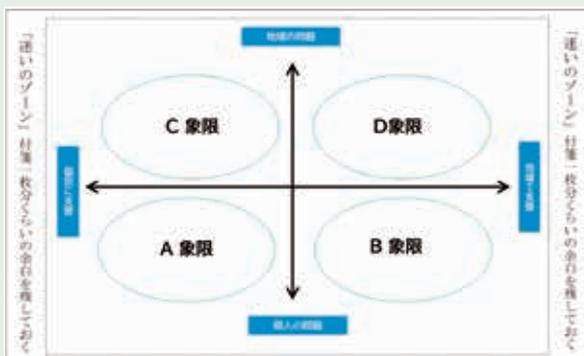
## 地域課題は探すのではなく気づくもの

### — 主任介護支援専門員の実践知を活かす構造化演習の試み —

松商短期大学部 経営情報学科 准教授 廣瀬 豊

地域に関わると言われても、何をすればいいのか…

主任介護支援専門員には地域包括ケアの推進役が期待されていますが、現場では「地域課題が分からない」「忙しくて余裕がない」という声が多く聞かれます。地域づくりに関わる多くの人に共通する戸惑いでもあります。地域のために何かしたいと思っても、どこから手をつければよいのか分からない…その迷いが、実践の一步を踏み出しにくくしています。



2軸4象限フレーム

実践から“気づく”ための構造化演習

令和7年度主任介護支援専門員研修では、地域課題を“探す”のではなく、日々の実践から“気づく”ことを目的とした演習を実施しました。受講者は自身の支援経験を語り合い、「支援のスケール」と「問題のスケール」の2軸4象限フレームに仮配置しながら、個別支援と地域課題のつながりを可視化しました。さらに6W4Hの問いの整理カードを用いて、困りごとの背景や関係者を構造的に捉え直しました。支援の経験を図に置き、問いを立てることで、地域に働きかける意味が自然と浮かび上がります。

個別支援の延長線上に地域づくりがある

演習後には「地域課題は探すのではなく気づくもの」「小さな困りごとでも地域に潜在する課題の兆し」といった声が寄せられました。日常の“もやもや”を言葉にし、他者と共有することが地域づくりの第一歩になることを、参加者自身の経験が示しています。地域包括ケアは特別な活動ではなく、個別支援の延長線上にあります。現場の実践知を起点に地域とのつながりを見いだすこの演習の考え方は、介護に限らず地域活動全般に応用可能です。今後も、実践と学びを往還しながら、地域に関わる人を育む取り組みを続けていきます。

## 『太りやすさ』の謎に迫る — セレンとエネルギー代謝の新しい科学 —

大学院健康科学研究科・健康栄養学科 准教授 黒川 優

「なぜ同じように食べていても太りやすい人がいるのか？」その背景には、微量元素の働きが関わっているかもしれません。私は必須微量元素であるセレンに着目し、栄養素がエネルギー代謝や肥満にどのように影響するのかを研究しています。セレンは抗酸化作用や体のエネルギー代謝に関わることで知られていますが、近年では脂肪組織の機能調節にも重要な役割を担うこと

が分かってきました。2025年にはハワイ大学との共同研究により、セレンを含む珍しいアミノ酸の代謝が滞ると、脂肪を燃やして熱を生み出す褐色脂肪細胞の働きが低下し、エネルギー消費が落ちることで体重増加につながるという新しい分子メカニズムを明らかにしました。

現在は、市内の医療機関と連携し、血液中でセレンを運ぶタンパク質の量が、治療

によってどのように変動するのかを解析しています。この研究は、医療現場で働く社会人大学院生との共同研究として進めており、実際の臨床データをもとに、基礎研究で得られた知見が人の健康にどう結びつくのかを検証しています。基礎と臨床、大学と医療現場をつなぐ架け橋となる研究を通じて、栄養学の視点から病気の予防・改善に貢献することを目指しています。

### 第14回 教員研究発表会を開催

2月16日と17日の2日間、第14回松本大学教員研究発表会を開催しました。年度初めに学内の競争的研究費として採択された課題を中心



に、今年度は31名の教員から発表が行われました。人文・社会科学から自然科学まで、さまざまな分野の研究発表が行われ、学部の枠を超えて活発な議論が交わされました。



発表内容はこちら

### 地域や高校生向けに 本学教員による出前講座を実施します

本学では、地域の方々や高校生の皆さんを対象に、教員による出前講座を実施しています。地域での各種講演会やシンポジウムに、講師・パネラーとして本学教員を派遣します。また、学問の面白さ、奥深さを感じ取っていただき、進路選択の際の参考にしていただけるよう、高校生・中学生向けに授業を実施します。詳細・お申込みは本学ホームページよりご覧ください。



2025年度

## 卒業研究・卒業論文発表会



学部生の  
発表内容はこちら



短大生の  
発表内容はこちら

総合経営学部 [ 総合経営学科・観光ホスピタリティ学科 ]

### 4年間の集大成、発表の姿から 後輩へ学び広がる

総合経営学科 准教授 古川 智史

総合経営学部では、1月28日に2025年度卒業研究発表会を開催しました。学びの集大成として、両学科あわせて8教室に分かれ、多彩なテーマの発表が行われました。口頭発表の会場では、限られた時間の中で、事前に準備した資料をもとに、卒業研究の成果が披露されました。質疑応答では教員だけでなく学生からも質問が出され、充実した時間となりました。また、観光ホスピタリティ学科では、今年度よりポスター発表を導入し、コアタイムを中心に活発な議論がなされていました。

会場には、発表する4年生だけではなく、3年生以下の学生も参加していました。4年生の発表の姿を見て、これからの学びのイメージを膨らませたのではないのでしょうか。今年度の卒業研究発表会も盛況のうちに無事終わることができました。4年生の皆さん、発表お疲れさまでした。1～3年生の皆さん、これからの大学での学びをさらに深めていきましょう。



総合経営学科 / 口頭発表



観光ホスピタリティ学科 / ポスター発表

## それぞれが見つけた課題の解決を目指して

健康栄養学科 准教授 山中 祥子

12月6日、健康栄養学科卒業研究発表会を開催しました。本学科の全学年が参加し、先輩たちの取り組んだ研究成果を知り、学生同士が互いに学びを深める機会となりました。今年度は口頭13題、ポスター33題が発表されました。

口頭発表は、栄養素による遺伝子発現などの基礎研究分野から栄養調査、食品開発、メニュー開発、食物アレルギーや食品ロスといった食に関する実践的な研究分野に加え、文化やメンタルヘルスに関する研究まで多岐にわたりましたが、いずれの発表者も自分の言葉で堂々と発表しており、4年間の成長が感じられました。また、質疑応答では、3年生を中心に積極的に質問する姿が印象的でした。

ポスター発表では、学生同士の質問や意見交換も盛んに行われました。終始和気あいあいとしており、研究内容だけでなく、各研究室の様子についても知る機会となり、2年生にとってはゼミ選択をするうえで参考になったのではないかと思います。



口頭発表



ポスター発表

## 110 演題が示した学びの集大成

スポーツ健康学科 准教授 新井 喜代加

12月13日、スポーツ健康学科の卒業研究発表会を開催しました。今年度は、14演題の口頭発表と96演題のポスター発表が行われました。研究テーマは、体育・スポーツ・健康・保健といった本学科の専門分野に関するものから、労働環境やメンタルヘルスなど現代社会が抱える課題に関するものまで幅広く、オーディエンスの関心を大いに集めました。

当日は全学年の学生が参加しました。1年生は「大学では卒業研究があるのか」と新鮮な驚きを覚え、2年生は「3年次のゼミをどこにしようか」と将来を思い描き、3年生は「来年は自分がこの場に立つのか」と決意を新たにしながら、4年生の発表に耳を傾けていたと思います。

毎年11月初旬になると、スポーツ健康学科の研究棟には4年生の姿が増え、活気に満ち始めます。まさに「卒論エンジン」がかかる瞬間です。今年もその勢いそのまま走り抜き、充実した研究成果を発表してくれました。4年生の皆さんには、社会においてもその行動力と瞬発力を存分に発揮されることを期待しています。



口頭発表



ポスター発表

## 国内外の多様な教育課題をテーマに研究成果を発表

学校教育学科 教授 安藤 江里

1月29日、教育学部学校教育学科5期生の卒業論文発表会を行いました。4年間の集大成として、今年度は15の各ゼミ代表者による口頭発表と37のポスター発表があり、学校教育に関連する様々な分野から、国内外の教育における諸問題まで幅広いテーマが取り上げられました。また、文献資料による先行研究を基盤に実験や調査を通して分析、考察された研究成果が十分に発揮されており、学生同士の議論も活発に行われていました。

今日的な教育課題は尽きませんが、目の前の課題と向き合いながら物事の本質を探究する姿勢を忘れず社会に出てからも活躍してほしいと思います。ご指導いただいた先生方、ご高覧いただいた皆さま、大変ありがとうございました。



口頭発表



ポスター発表

## 多様なテーマの研究発表が拓く、 学びの新たな視野

松商短期大学部 商学科 教授 木下 貴博

1月21日、1年生の合同ゼミの時間に、2年生による卒業研究発表会を開催しました。今年度は4ゼミ5グループが発表に臨みました。発表順に紹介すると、廣瀬ゼミからはステッキのオリジナルデザインについて、中山ゼミからはライバル関係が動機づけに及ぼす文化的差異について発表がありました。また、ゼミ全体で1つの作品を作成した浜崎ゼミの3Dアプリケーション(VR)の開発に関する発表もありました。小澤ゼミからは、2つの報告がありました。安曇野市の婚姻状況と地域社会の変化と、長野県の婚姻状況・婚姻意識の変化についてです。1年生は、各発表者のテーマやプレゼンの仕方などをアンケート形式で評価をしました。様々なテーマの発表を聞くことで学びの視野を広げ、次年度の卒業研究に活かしていただきたいと思います。



3Dアプリケーションの開発について(浜崎ゼミ)

## 大学院 健康科学研究科

## 競技スポーツから基礎研究に至る幅広い研究テーマ

大学院健康科学研究科・スポーツ健康学科 教授 河野 史倫

2月10日、大学院健康科学研究科では、博士前期課程の大学院生3名による研究発表が行われました。全員が本学スポーツ健康学科から進学した大学院生であり、いずれもスポーツや運動に関連する研究テーマに取り組みました。競技スポーツ領域では、アスリートの競技離脱や女性アスリートのライフイベントと競技キャリアの関係に関する研究が発表されました。将来、教育職に就くことを目指す大学院生に対して、教育現場の実情を踏まえた活発な意見交換が行われました。基礎研究領域では、運動によって生じるエピジェネティクスを解明することを目的とした遺伝子改変マウス



発表者	論文タイトル
石坂 巽海	優れた指導者は選手の競技離脱に対してどのような指導観を持って関わっているのだろうか？
篠崎 智貴	SPT16コンディショナルノックインマウスの作製
鈴木 陽世梨	妊娠及び出産が女性アスリートの自己実現に及ぼす心理・社会的影響要因に関する総合的考察

の作製について発表がなされ、遺伝子設計や検証方法について専門性の高い議論が展開されました。本発表会を通して、スポーツや運動が対象とする研究領域の広範さを改めて実感しました。

## 大学院 総合経営研究科

## 社会人としての今後につながる2年間の研究成果

大学院総合経営研究科・観光ホスピタリティ学科 教授 増尾 均

2月6日、大学院総合経営研究科では、修士課程の大学院生1名による研究発表が行われました。修士論文の内容は、南信州の伝統的な祭礼・民俗芸能の現状と包含する課題について、動態的過程として解明しようとするものでした。特筆すべきは、地域社会が憂慮している祭礼等の継承問題について、長期にわたる現地資料やデータの収集のもと、これまで祭礼等の担い手の周辺部に置かれていた女性・



発表者	論文タイトル
大岩 音寧	地方祭礼・民俗芸能の継承における動態的分析 —長野県南信州地域を対象とした考察—

子供・移住者等に焦点を当て、組織運営の在り方に一石を投じた点にあります。当日は教員のみならず、大学院生、研究生、学部生の参加があり、多くの質問・意見、それに対する院生の適切な応答がみられ、充実した発表会となりました。大学院の貴重な2年間の研究経験が、社会人としての今後の活躍につながるものと思います。

大学院生が産学連携で高齢期の健康課題に挑む  
倉澤さんと伊那食品工業が研究論文を発表

大学院健康科学研究科・健康栄養学科 准教授 黒川 優

かんてんぱぱで知られる、伊那食品工業株式会社(長野県伊那市)との共同研究として、倉澤里奈さん(健康科学研究科博士課程2年)が高齢者の健康課題であるフレイル対策に関する研究成果を発表しました。本研究では、腸内環境を整える作用や体の炎症を抑える作用などが報告されている、寒天由来の「アガロオリゴ糖」に着目し、食品に含まれる成分が高齢期の体の動きや健康に与える影響を調べました。

フレイルの前段階にある高齢者を対象に、アガロオリゴ糖を摂

取した前後の歩行速度や起立動作といった日常生活に直結する動きを評価した結果、歩く速さなどに改善の傾向が見られ、本食品由来の成分がフレイルの進行を抑える可能性が示されました。

企業と大学院とが連携することで、「研究室の中だけで終わらない」「将来、食品として社会に役立つかどうか」を意識した研究が可能になり、大学院での学びを社会につなげる重要な取り組みとなりました。

## フレイル(虚弱)とは?

フレイルは、加齢により筋力や体力が低下し、「元気」と「要介護」の中間にあたる状態です。歩く速度の低下などが見られ、進行すると介護が必要になることがあります。一方で、食事や運動などの工夫で元気な状態へ戻ることもできるため、日常的に続けられる対策が重要とされています。

～健康とは何かを考えよう～

# 「第4回 松本大学健康フォーラム」を開催

## 延べ800名を超える参加で大盛況！

地域力創造委員長・総合経営学科 教授 矢崎 久

今年度から、より地域の方々に参加していただくことを念頭に置いて、これまでの「松本大学健康首都会議」から「松本大学健康フォーラム」へと名称を変更し、「第4回松本大学健康フォーラム」(実行委員会構成団体:松本大学(株)市民タイムス・abn長野朝日放送、運営事務局:(株)日本広告)を開催しました。市民参加型講座として「健康とは何かを考えよう」をテーマに、11月30日、本学を会場に実施しました。天候にも恵まれ、参加者数は延べ800名を超える賑わいとなりました。

当日は、清水一彦学長の挨拶からス

タートし、菅谷昭前学長による「高度加齢時代の生き方対応」、松本歯科大学の増田裕次特任教授による「よく噛んで健康に!」、そして早稲田大学の樋口満名誉教授による「健康寿命と身体の科学」などの特別講演をはじめ、全23講座を用意しました。

また、「運動と食事から始めよう予防医学!!」、「防災減災による地域の健康づくり」、「障害がある人の経済的支援」「健康づくりを支える観光の役割と可能性」などの座学を主体とした講座のほか、体育館を会場とした「無理なくできる中高年

のための筋トレ実践講座」、「脳と体の健康教室」などの実践講座も開講され、複数受講する方の姿も多く見かけました。

さらに、大塚製薬株式会社様、株式会社ナガノトマト様の協賛・協力を得て開設した健康関連ブースでも多くの方が担当者の説明に耳を傾けていました。

ご来場いただきました皆さま、学内外の講師の皆さま、開催にあたり細かな部分まで配慮をいただいた実行委員会の皆さまには、この場をお借りしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

### REPORT

#### 学内外の講師陣による多彩な講座とブースの一部を紹介

健康寿命と身体の科学  
～老化を防ぐ、50歳からの「運動・食事・習慣」～



講師：早稲田大学  
樋口満 名誉教授

よく噛んで健康に!  
～カムカム健康プログラムのフレイル予防効果～



講師：松本歯科大学  
増田裕次 特任教授

無理なくできる中高年のための  
筋トレ実践講座



講師：スポーツ健康学科  
根本ゼミナールの学生

健康関連ブースの様子



多くの来場者が足を止め、  
賑わいを見せました。

### ● 地域健康支援ステーションの講座から ●

地域健康支援ステーションでは「簡単体力チェック～自分の体について知ろう～」をテーマに、座学を交えながら体力チェックを実施しました。体力といえば、小学生から高校生の頃に学校などで実施する体力測定を経験した方が多いと思いますが、今回の講座では測定機器は用いずに簡易的な方法で、柔軟性・心肺持久力(スタミナ)・平衡性(バランス)・敏捷性(素早さ)・筋力/筋持久力の5項目を測定しました。

ご参加いただいた方からは「普段体を動かしているから自信があったけど、思ったより体が動かなかった」「楽しかった」などのお声をいただきました。簡単な体力チェックでも、ご自身の体力について知る良いきっかけとなれば幸いです。

(地域健康支援ステーション 健康運動指導士 小澤 菜々子)



## よりよい松商短大を目指して 学生意見交換会を実施

松商短期大学部 商学科 教授 金子 能呼

12月8日、松商短期大学部の学友会代議員主催による、学生意見交換会が行われました。本学をよりよくすることを目的としたグループディスカッションでは、学生たちが意見を出し合い、和気あいあいと議論に参加する様子が見られました。各グループで集約された意見によると、本学のよいところは、好きな授業を自由に学べることや、学生と教員の距離が近

いことなど。また、本学の改善すべき点は、休日に授業や行事があることなどの意見が述べられました。休日はしっかり休み、代わりに長期休みの日数を減らしてほしいといった具体案も併せて発表され、大変興味深く聴かせていただきました。



本音で語り合い、ディスカッションをする機会を設け、運営してくれた学生の皆さん、ありがとうございました。



グループディスカッションの様子

### ● 姉妹校 湘北短大との交流会も実施!

12月13日、松商短期大学部の姉妹校である湘北短期大学との交流会を開催しました。短大をさらに盛り上げていくため、総勢55名の両短大の学友会メンバーが意見交換を行いました。



参加した学生より



短大部学友会長  
山本 空誠さん  
(松商短期大学部2年)

「短大でどんな企画をしたいか」をテーマに、学内活性化や地域貢献の視点から議論を交わしました。話し合うことにより、学生ならではのアイデアが生まれ、お互い良い刺激になりました。これを糧に今後も、それぞれの場所で歩みながらも共に支え合い、未来を照らし合える姉妹校であり続けてほしいです。

## キャンパスを飛び出し、地域で学ぶ アウトキャンパス・スタディ

### 地域を守る消防団の「リアル」を知る!

観光ホスピタリティ学科 教授 入江 さやか

全国的に消防団の担い手の確保が課題となっていますが、観光ホスピタリティ学科「災害ボランティア論」の授業では、松本市消防防災課と松本市消防団にご協力をいただき、消防団の「リアル」を知る取り組みを行っています。11月17日の授業では、大学が立地する新村地区の第11分団の詰所を訪問し、消防車や消防服などの機材に触れました。また、消防団が使用

している消火ホースの展張や巻き取りも体験しました。

12月15日には、消防団の皆さんと学生の意見交換を本学で行いました。ライフスタイルに応じた参加が可能で、女性や学生が担える役割もあることなど、時代に応じて変化している消防団の活動について知る貴重な機会となりました。学生たちのレポートからは、消防団が「顔」の見える身近な存在になっていることが読み取れました。消防団の皆さんのご協力に改めて感謝するとともに、息の長い取り組みを続けていきたいと考えています。



消防車を見学する学生たち



意見交換の様子

## 過去最多となる延べ173社が参加！ 学内合同企業セミナーを開催

キャリアセンター 係長 田嶋 哲也

2月18日から20日の3日間、本学第一体育館および513教室を会場に、27卒対象の学内合同企業セミナーを開催しました。今年も3日間の入れ替え制で実施し、延べ173社にご参加いただくなど、



過去最大規模での開催となりました。各ブースでは企業の事業内容や強み、働き方などについて説明が行われ、学生たちはメモを取りながら熱心に耳を傾け、積極的に質問する姿が印象的でした。

近年は早期選考が進み、就職活動の開始時期が年々早まっています。しかし、情報が多く発信されるこの時期は、できるだけ多くの業界・企業に触れることが重要です。人は「知っているもの」の中からは選ぶことができません。多様な情報に



触れることが、納得感のある進路選択につながると思います。

また、進路決定後も悩む学生は少なくありません。そのような中でも、十分に情報を得て考え抜いたうえで選択した道が、「自分が選んだ」と胸を張って言えるものであってほしいと願っています。

ご多用の中で参加いただきました企業の皆さまに、心より御礼申し上げます。

### 本学卒業生も企業担当者として参加！

同セミナーには、約40名の卒業生も企業側として参加いただき、後輩たちに説明をしました。学生たちにとっては、社会で活躍する卒業生の声を実際に聞くことで、業界や企業への理解を深め、より具体的に将来の働くイメージをもてる機会となりました。



## 修了生・卒業生618名の新たな門立 2025年度学位授与式・卒業記念パーティー

3月13日、2025年度松本大学・松本大学松商短期大学部・松本大学大学院の学位授与式を挙行了いたしました。今年度は、大学院健康科学研究科博士前期課程3名、大学院総合経営研究科修士課程1名、総合経営学部217名（総合経営学科116名・観光ホスピタリティ学科101名）、人間健康学部182名（健康栄養学科76名・スポーツ健康学科106名）、教育学部学校教育学科50名、松商短期大学部165名（商学科82名・経営情報学科83名）の計618名に清水一彦学長より学位記が授与されました。修了生・卒業生を代表し、スポーツ健康学科の加藤花琉さんが「それぞれが進む道が異なるものであろうとも、建学の精神『自主独立』の言葉を胸に、誇りをもって進んでいきたい」と決意を述べました。

学位授与式後には、松本大学同窓会主催による卒業記念パーティーが開催され、ともに過ごした仲間や教職員との別れを惜しみながらも、学び舎を巣立っていく卒業生たちの新たな門出を祝福する素敵な時間となりました。修了生・卒業生の皆さん、おめでとうございます！



### 卒業・修了記念品を寄贈いただきました

2025年度卒業生・修了生の皆さんより、卒業・修了記念品として給水機2台、電子黒板1台、学生用チェア一式を寄贈いただきました。より充実した学修環境にて在学生に過ごしてもらえよう、大切に活用させていただきます。ありがとうございます。

給水器は  
7号館1階コモンルームと  
フォレストフォール2階に  
設置されます。



## NEWS &amp; TOPICS

## 第8回「あるぷすタウン」を開催！

2月14日・15日、第8回「あるぷすタウン」を本学で開催しました。地域の皆さまのご協力のもと、就労と消費を学ぶ仕組みを大学生が企画運営し、延べ130名以上の小学生が参加しました。小学生は「あるぷすタウン」の市民となり、18の職業を体験し、給料として仮想通貨「yume」をもらい、スーパーやアカデミーで使用する街づくりの仕組みを体験しました。学生たちは、保護者の手助けなく、子どもたちが自ら考えて職業を学べるよう計画をしてきました。実際に、小学生からは「本当の仕事をやっているみたいで楽しかった」「自主的に体験でき来年も参加したい」など、前向きな意見が多く寄せられました。（地域づくり考房『ゆめ』専門員 倉田 吉春）



## 日本語スピーチコンテストにて、本学留学生が見事1位に！

11月28日、松本東ロータリークラブ主催「第32回留学生による日本語スピーチコンテスト」が開催され、本学からは嶺南師範学院（中国）からの交換留学生、唐笑（トウ ショウ）さんと李 幸琳（リ コウリン）さんが出場しました。唐さんは「小さな絆が生む大きな力」、李さんは「化粧は思いやり」と題し、流暢な日本語と身振り手振りを交えてスピーチをし、日ごろの成果を存分に発揮しました。審査の結果、本学の李さんと信州大学の留学生が分け合い、見事1位となりました。



（国際交流センター運営委員長 教授 糸井 重夫）

4年連続で全国合格率を上回る！  
「社会福祉士国家試験」結果報告

2月1日に行われた第38回社会福祉士国家試験において、本学学生の合格率は62.5%（全国合格率60.7%）となり、4年連続で全国合格率を上回ることができました。合格に向けて努力を重ねてきた学生たちの頑張りを心から称えたいと思います。

本学では合格に向けて、試験対策講座をはじめ、模擬試験の実施や学習環境の確保、県社会福祉士会との連携、個別相談など、きめ細やかなサポートを行っています。引き続き、学生一人ひとりの頑張りを全力で応援します。（観光ホスピタリティ学科 准教授 今村 篤史）

## 「令和7年度松商学園SSH成果発表会」に本学学生が参加

3月10日、松商学園高校にて「松商学園SSH成果発表会」が開催され、本学からは大学院生、学部生、短大生の計15名が参加しました。午前中のポスターセッションでは、本学学生たちも各自の研究内容を発表し、質疑応答の時間では、活発な議論が展開されていました。今後も世代を超えた学びの場が広がっていくことを願っています。



## 日本災害情報学会大会で松澤さんが研究成果を発表

11月8・9日に関西大学（大阪府）で開かれた日本災害情報学会大会で、松澤尚弥さん（観光ホスピタリティ学科3年）が研究成果を発表しました。松澤さんは、4月18日に松本市で震度4を観測した地震の翌日、松本駅前で行った入江さやか教授と訪日外国人を対象に地震発生時の対応や情報入手についてアンケート調査を実施しました。学会ではその結果を発表し、訪日外国人向けの災害時の情報提供のあり方を提言しました。発表後には東北大学の研究者や気象庁の職員などからも質問やコメントが寄せられました。

## 部活動地域展開の実証事業 修了証を授与

2025年度、スポーツ健康学科の新井ゼミと本間ゼミでは、部活動の地域展開が進む中、持続可能な地域クラブ活動の運営と大学による地域貢献を目的に、長野県教育委員会との連携事業として部活動地域展開の実証事業を実施しました。



教育委員会による「安全管理」、「ハラスメント」、「効果的指導法」といった事前講習を受けたのち、県内で活動する地域クラブでの現場実習を経て、スポーツ庁が推進する部活動地域展開の実際を担う役割として、両ゼミ生が活動に参加しました。学位授与式の終了後には、同事業の「修了式」を執り行い、実証事業を無事に遂行した学生に対して、修了証が授与されました。（スポーツ健康学科 准教授 新井 喜代加、専任講師 本間 崇教）

図書館に新ラーニングコモンズ  
「まつコモ」が誕生！

本学図書館に新しいラーニングコモンズ「まつコモ」が完成しました。学内から愛称・ロゴを募集し、50作品ほどの応募から、栗原彩奈さん（総合経営学科2年）の「まつコモ」が最優秀賞に選ばれました。今後はグループ学習室などとして活用していきます。

校用バスが  
新しくなりました！

新しい大型バスとマイクローバスが納車されました。アウトキャンパス・スタディやクラブ活動などに活用していきます。



硬式野球部

男子サッカー部

## 2026年度リーグ戦日程

下記日程にてリーグ戦が開催されます。応援のほど、よろしくお願いいたします。



### ■関甲新学生野球連盟 春季1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	4	土	松本大学 — 作新学院大学	13:00	上武大学野球場
	4	5	日	作新学院大学 — 松本大学	10:00	
第2節	4	11	土	松本大学 — 関東学園大学	13:00	平成国際大学野球場
	4	12	日	関東学園大学 — 松本大学	10:00	
第3節	4	18	土	松本大学 — 平成国際大学	13:00	平成国際大学野球場
	4	19	日	平成国際大学 — 松本大学	10:00	
第4節	4	25	土	常盤大学 — 松本大学	10:00	平成国際大学野球場
	4	26	日	松本大学 — 常盤大学	13:00	
第5節	5	9	土	山梨学院大学 — 松本大学	12:00	信州グリーンローズスタジアム四賀
	5	10	日	松本大学 — 山梨学院大学	12:00	
第6節	5	16	土	白鷲大学 — 松本大学	10:00	白鷲大学野球場
	5	17	日	松本大学 — 白鷲大学	13:00	
第7節	5	23	土	上武大学 — 松本大学	10:00	上武大学野球場
	5	24	日	松本大学 — 上武大学	13:00	

※日程・会場は、都合により変更となる場合があります。

### ■北信越大学サッカーリーグ戦 前期1部リーグ戦の日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	4	4	土	松本大学 — 新潟大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第2節	4	11	土	金沢大学 — 松本大学	10:30	金沢大学 SOLTILLO FIELD A
第3節	4	18	土	松本大学 — 金沢学院大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第4節	5	16	土	新潟産業大学 — 松本大学	10:00	刈羽びあパーク
第5節	5	23	土	松本大学 — 新潟経営大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第6節	5	30	土	北陸大学 — 松本大学	11:00	北陸大学フットボールパーク
第7節	6	7	日	松本大学 — 新潟医療福祉大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第8節	9	20	日	新潟大学 — 松本大学	16:00	調整中
第9節	9	26	土	松本大学 — 金沢大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第10節	10	3	土	金沢学院大学 — 松本大学	10:00	金沢学院大学クーンフィールド
第11節	10	10	土	松本大学 — 新潟産業大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第12節	10	17	土	新潟経営大学 — 松本大学	13:30	経大フィールド
第13節	10	24	土	松本大学 — 北陸大学	10:00	松商学園総合グラウンド
第14節	10	31	土	新潟医療福祉大学 — 松本大学	10:00	NUHW FOOTBALL FIELD

※日程・会場は、都合により変更となる場合があります。

## 退職のあいさつ

### 貴重な経験



大学院健康科学研究科・健康栄養学科 副学長・教授  
**木藤 伸夫**

2014年に松本大学に赴任して以来、十余年にわたり管理栄養士養成の学生教育に携わってきました。また、学部の管理職や副学長などの大学運営に関わる職務を務めることもでき、多くの貴重な経験をさせていただきました。これまで支えてくださった皆さまに感謝申し上げるとともに、今後の松本大学の発展を願っています。

### 開学からの歩みと松本大学2.0への期待



観光ホスピタリティ学科 教授  
**林 昌孝**

開学時の各委員会の立ち上げや外部資金獲得、資格取得に向けたカリキュラムの整備等に、微力ながら無我夢中で取り組んで参りました。共に歩んだ皆さまに深く感謝いたします。今後は、これまでの土台を大切にしつつも、時代の変化に応じた柔軟な「松本大学2.0」への進化を期待しています。長い間、ありがとうございました。

### これまでの御礼



観光ホスピタリティ学科 准教授  
**城本 高輝**

在職中は、学生の皆さん、教職員の皆さまに多くのご支援をいただき、心より御礼申し上げます。日々の授業やゼミ、学内外での活動を通じて、学生の成長に立ち会えたことは大きな喜びでした。皆さまから賜りましたご厚情に深く感謝申し上げますとともに、松本大学のさらなる発展をお祈りいたします。

### 価値ある7年間ありがとうございました



大学院健康科学研究科・健康栄養学科 教授  
**青木 雄次**

7年前内科勤務医から転職し、貴重な経験をさせていただきました。教育・研究面で新たな気づきも多く、とても良い刺激になりました。今後は、短いスパンの目標となりますが、退職後には個人事業「抗加齢生活ラボ」を始めます。再び道が変わることを願いながら、退職に際してこの7年間のこと皆さまに深く感謝申し上げます。

### ホスピタリティという概念を広めて



観光ホスピタリティ学科 教授  
**益山 代利子**

本学に観光ホスピタリティ学科が誕生して20年。当初より「ホスピタリティって何?」「学科名として浸透しづらい」との声もありましたが、ホスピタリティの心得を持って活躍する卒業生を輩出し、思いやりの文化を育む諸活動に貢献できたことは、無上の喜びであり自身のライフワークともなりました。心より感謝申し上げます。

### 「ゆめ」のような5年間感謝で一杯です



地域づくり考房「ゆめ」 専門員  
**倉田 吉春**

大学創立の時の話を地域の方にお聞きしました。最近の学生を見ていると心配よりも感謝と期待がいっぱい地域に欠かせない大学になったことを話して下さいました。地域の課題は少子高齢化、地域交流の減少とどの地区もおおむね共通しています。学生に対する期待は益々高まっています。学びの場は沢山ある気がします。今後の松本大学のご活躍とご発展を心からお祈りして感謝の気持ちとさせていただきます。

MATSUMOTO UNIVERSITY & MATSUSHO JUNIOR COLLEGE 2026



# OPEN CAMPUS

#なりたい自分に出会える日。

オープンキャンパス全日程

4.18<sup>土</sup> | 5.24<sup>日</sup> | 6.14<sup>日</sup> | 7.25<sup>土</sup>  
8.6<sup>木</sup> | 8.22<sup>土</sup> | 9.12<sup>土</sup>

🕒 開催時間 9:50~14:00予定 (受付9:30~) ⚠️ 途中退出可

🚌 アクセス 無料シャトルバスを運行  
長野駅(東口側)、上田駅(温泉口側)、  
飯田駅、伊那(上伊那農業高校前)

●予約制、定員に達し次第受付を終了します。●7・8月開催日は松本駅間も運行予定。  
●最新情報・詳細はHPをご確認ください。●8月開催日は上越・甲府からも運行予定。

🚗 お車で越しの方は 学生駐車場をご利用ください

## 無料学食ランチ体験

ランチタイムも学生生活の  
楽しみのひとつ!人気メニュー  
から好きなものを選んで、  
学食を体験してみよう。

※イメージ



事前申込制  
ご予約はこちら!



Matsu  
navi



松本大学キャンパス  
ナビゲーター  
「マツナビ」

教職員とともにオープン  
キャンパスなどを運営し  
ている学生団体です。  
皆さんを笑顔でおもてな  
しすることを第一に学生  
ならではの目線で本学の  
魅力をお伝えします!

特別企画

## 高校生のための授業公開日



実際の授業や学内の雰囲気など、  
大学・短大の日常を見学できます。  
保護者の方もぜひ一緒に!

10.12<sup>月祝</sup> ⚠️ 当日の詳細は  
webで確認!

2027年4月 松本大学に

# 人間科学群<sup>(仮称)</sup> 設置構想中!

人間の発達・成長や健康をデータを用いて広く学び、  
「こころ」と「からだ」の両面から人や社会を支援できる人材に!

「学群」とは

連携協力の複数学部・学問分野から構成され、幅広い学びを柔軟に選択できます。  
学士の学位を取得でき、学歴の取り扱いは通常の学部と同等の位置づけです。

※設置構想中であり、内容は変更となることがあります。

## 編集後記

趣味でランニングをしています。走っている最中は強い向かい風や足元の段差、背後からくる車に意識を取られ、周囲の景色を楽しむ余裕はほとんどありません。ところが歩いてみると、街路樹は何の木だろうか、コブシかサクラか、それともハナミズキかなど考えながら、風景そのものを楽しむ心のゆとりが生まれてきます。同じ道ははずなのに、走る時とは違う景色に見えるため、視野が広がってちょっと得たような気分になります。全力で駆け抜ける時間も大切だが、ときには立ち止まり、ゆっくり考えることで見えてくるものもあるのだと感じました。  
(記・入試広報室長 中村 礼二)

松本大学・松商短大の『今』を知るなら、公式SNS!



Instagram



LINE



X



松本大学・松商短大

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 TEL 0263-48-7200  
www.matsumoto-u.ac.jp